



「令和5年度 人権意識を高めるための作品集」から人権作文を掲載します。

## 差別とたたかうということ

丹原西中学校 3年 野口 倖愛 (令和5年時)

日本には、たくさんの人権問題があります。そして、今もなお差別により苦しんでいる人がいます。差別がなくならないのは、正しい知識を身に付け、正確に理解している人が少ないからだと思えます。日本には、約16の人権課題があり、それらを解消するためには、正しい知識と理解を深めることが大切だとされています。

現在も解消されていない差別には、江戸時代から根強く残っているものがあります。それは、部落差別です。学校の授業で習うまで、このような差別が存在することを知りませんでした。中世では、自然に手を加えたり、死や出血などの非日常的なものに関わったりすると「ケガレ」を受けるとされてきました。そのため、河の近くで生活していた特定の人たちが、それを生業としてきました。皮革業や守番などの役人の下働き、芸能や庭師など、人々が生きていくためになくてはならない仕事をしていました。初めは尊敬されていた部分もありましたが、次第に畏怖に変わり、やがて差別が始まったとされています。さらに、当時の幕府の政策により、差別が苛烈さを増します。身分制度が敷かれ、武士、百姓、町人の三つの身分に分けられることになりました。しかし、そのどれにも属することがなかった人たちがいます。その人たちは、村の運営や祭りに参加することができず、住む場所や職業、着るものや仕事に使う道具まで制限されました。また、犯罪者を捕らえたり、刑罰を実行したりする職務に就かされ、周りから一方的に恨みを買うことになり、集落の中で孤立していき、見せしめのようにひどい扱いを受けたとされています。「みんなしているから、自分たちとは違うから」と、差別は広がり、今日まで根強く残っているのです。差別を解消するためには、このことに気付くことから始まります。

私たちは、学校で部落差別の成り立ちから、差別解消に向けてどのような取組がされてきたかを学んできました。たくさんの人たちが、部落差別撤廃に取り組んできたことを知りました。その結果、差別事象が減少傾向にあります。しかし、「0」ではありません。私たちは「0」になるまで、差別と闘わなければならないと思えます。

最近では、インターネットの中で差別事象が起こっているケースもあります。その一つが、個人が簡単にモノの売り買いが楽しめるフリマアプリのサイト上で、同和地区名などを記載した「部落地名総鑑」の復刻版に当たる出版物が出品された件です。報道では、出品者に差別的意図や悪意等はなかったとありましたが、自分が気付かないうちに、差別に加担してしまった一例だと思います。また、動画投稿サイトに、被差別部落の個人宅などを撮影した動画がアップロードされています。署名活動により、二百本ほどが権利者によって削除されることになりましたが、似たような動画はまだ公開されたままであるそうです。部落差別について、正しい知識を持つことができていない人がこの動画を見たらどう思うのでしょうか。事実と異なる認識を植え付けられ、間違っただけの思い込みや偏見を持ってしまわないのでしょうか。それでは、悲劇を繰り返すだけになってしまいます。

差別は「アンコンシャスバイアス」という無意識の思い込みや偏見により、被害者の未来や可能性を潰すものです。そんなことは許されてはいけません。ただし、知らず知らずに差別に加担してしまうケースもあります。自分がそうならないか、思い込みや偏見に囚われないよう、自分が考えるのです。また、差別をしてはいけないと思っても、「みんなしている」「みんな同じだから大丈夫」と弱い気持ちに流されることもあります。これは、バンドワゴン効果と言い、「みんながやっていることなら正しい」と思ってしまう心理的作用のことです。人間の心の性質を正しく理解していなければ、差別やいじめだけでなく、多くの問題を引き起こします。これらのことから、私たちは学校で人権・同和教育をしているのだと思えました。私たち人間はどうしても、思い込みによって間違えたり、周りに流されたりします。「正しい行動を取るためには、正しい知識を基に自分で見て考え、判断することが重要です」と授業の中で、先生が話していた言葉を思い出しました。自分は大丈夫だと思わずに、相手の気持ちをしっかり考えながら、自分で判断していかなければいけないことを、今後も忘れずに生活していきます。